

あなたもチャレンジ 家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

葉ダイコン 防虫ネットで虫害を回避

図1 畑の準備

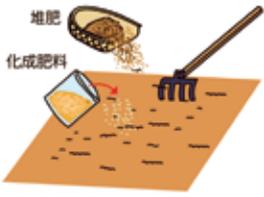


図2 種まき

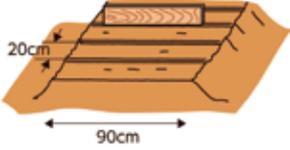


図3 幼苗の保護



図4 間引き

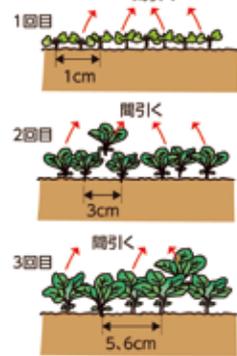
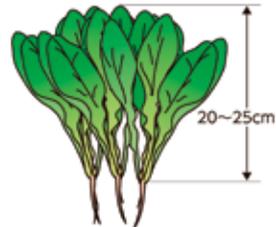


図5 収穫



ダイコンの葉は、漬け物、ごまあえ、炒め物として利用されます。間引きした葉も利用できますが、葉を食べることを目的に栽培をします。

【栽培時期】 ダイコンの生育適温は20度くらいで、秋まき(9月)が最も作りやすい季節です。しかし、葉ダイコンは生育期間が短いので、冬の11~2月まきを除くと、いつでも種まきができます。1、2カ月で収穫となります。

【品種】 ダイコンの品種はたくさんありますが、葉の品質が良く、表面に毛が少なく、柔らかい品種が葉ダイコンに適しています。専用品種には「葉大臣(サカタのタネ)」、「ハットリくん」(タキイ種苗)、「美菜」(ヴィルモラン) (みかど) などがありますが、青首ダイコンの各品種や地方品種の「方領二亀」

戸も葉ダイコンに使えます。

【畑の準備】 種まきの2週間前までに1平方m当たり苦土石灰200gをまき、よく耕し酸度を矯正しておきます。1週間前までに化成肥料(NPK各成分12%程度)100g程度と堆肥1kgを施し、土とよく混ぜておきます(図1)。その後、幅90cmの栽培床を作ります。

【種まき】 栽培床の長辺方向と直角に、20cm間隔に約1cmの厚さの板を使って、土を押ししてまき溝を作りま(図2)。ここに1、2cm間隔に種をまき、種が隠れる程度に薄く土をかけます。発芽まで十分に灌水(ぬぐい)します。種まき後は、不織布のべたがけをして、幼苗を保護すると良いでしょう(図3)。

【間引き】 発芽後3回に分けて間引きします。1回目は本葉が開く頃、株間が1cm程度となるように成長の遅れた株、密になっている株を抜き取ります。2回目は本葉3枚の頃、株間を3cm程度にします。3回目に最終株間を5、6cmに間引きます(図4)。

【灌水】 畑が極端に乾いていたら、水を

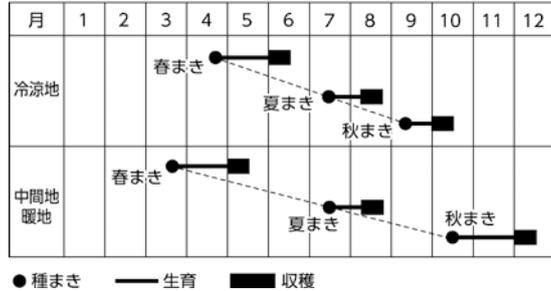
を株元にたっぷり与えましょう。

【害虫防除】 小さい葉の食害は後になって目立つてきますので、種まき後すぐに、不織布のべたがけ、または網目の細かい防虫ネットでトンネル状に被覆して害虫の侵入を防ぎます。農業では、アオムシ、コナガにはディアナSCで防除します。

【収穫】 草丈が20~25cmになったら、根を付けて抜き取ります(図5)。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

栽培カレンダー



ハクサイ

問題

ハクサイの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① ハクサイの生育前半の適温は18~20度だが、結球期の適温は25度以上である。
- ② 高温・乾燥の天候や窒素肥料が不足したときには、軟腐病が発生しやすくなる。
- ③ ハクサイの根こぶ病は、根に大小不ぞろいのこぶが多数でき、生育を阻害する土壌伝染性の病気である。
- ④ 結球時に多くの光が当たると結球が進まなくなる。

解答

正解は③です。
解説・生育前半の適温は18~20度ですが、結球期は15~16度が適温となります。また、弱光にも耐えますが、結球期には多くの光を必要とします。

ハクサイの根こぶ病は土壌伝染性の病気です。ハクサイは酸性土壌で病気が発生しやすくなるので、石灰は多めに施しておきます。

高温や多湿、窒素過多のときに軟腐病が発生し、植物の地際部に病斑ができ、やがて全体が軟化・腐敗します。連作を避け、土壌の排水性を良くする他、抵抗性品種の利用も効果的です。また、発病してしまった株は早めに取り除きましょう。



図 ハクサイの根こぶ病

『新版 日本の農と食を学ぶ中級編』(104ページ)より

● 日本農業検定事務局

日本の「農」と「食」を学ぶ